

# 研究雑話(128)

障害児教育・動作学誌上実習(46)

藤井力夫

## 姿勢反射の発達とリズム運動の習熟(26)

### 3 3 7 拍子から付点音符の世界へ、「自分の足拍」。

前回は、1回旋2跳躍を持続できることの意義についてお話ししました。「タンタ」の2ビート跳躍の持続は、なわとび動作・連続60回以上のみならず、手の交互開閉動作でも毎分110回程度のスムーズなそれを導くのでした。また、この2ビート跳躍の安定が、「自分のリズム」と呼べる内容のものと深く関係しているのです。なぜそう言えるのか。今回は、「自分の足拍」という観点からお話したいと思います。

「自分の足拍」：動作の基本は、

歩行運動に代表される左右の相反性リズムと跳躍動作に代表される保護伸展性リズムからなることは何度かお話ししました(雑話25, 64, 68, 73, 75, 99-101)。「自分のリズム」とはそれらの好きな速さを軸とした速さ調節の容量で、「足拍」はそれらを刻む一步一步の支持時間、音楽での音価・「四分音符」に相当します。

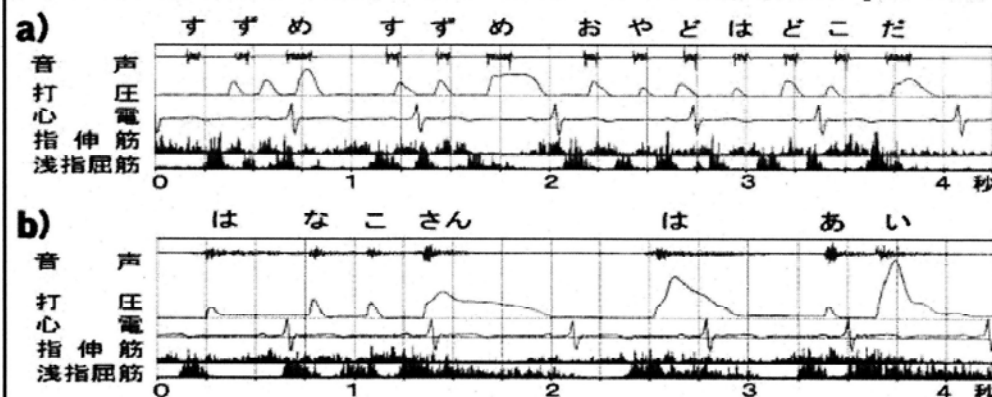
2ビートは4分の2拍子：2ビートは「タンタ」の2拍子です。跳躍でのその増強は、歩行でのそれをいっそう強めます。前号図Aの資料で

も、2拍子の要素を入れる(1回旋2跳躍)と、毎分120前後の速さに収束されました。これは誰にでも観察される傾向です。速さの定まらない跳躍が、拍子を入れると、歩行テンポに引き寄せられ、「4分音符」で反応してしまうのです。

8分音符は伸筋、リズム打ちの秘密：図Aは、2ビート跳躍・持続可能な生徒(障害児学級中学部)にみるリズム打ち動作の筋電図。a)「すずめすずめ」。b)「はなこさん」。前者は3 3 7拍子で、8分音符の利用。後者は後動機・付点4分音符の調節。屈筋は動作100ミリ秒前あたりから放電していますが、タップ時は伸筋です。かつそれは4分音符より8分音符時に顕著です。8分音符を手がかりに、2小節のまとまりで予期している傾向が観察されます。

3 3 7 拍子から付点音符の世界：図Cは手のリズム打ち・調査パターン。同Bは評価カテゴリー。同Dは2ビート跳躍との発達連関(括弧内なわとび回数)。2ビート跳躍の安定(段階A)は、付点音符を含むリズムパターンを同期(⑤)。膝屈曲で反応するタイプ(B)は、8分音符を手がかりに3 3 7拍子を同期(②③④)。身体全体で反応するタイプ(C)は、8分音符を手がかりにし難い。連続跳躍自体が課題の場合(D)は、強弱同期なら可(①)。「足拍」の安定が8分音符を手がかりに2小節のリズムを同期させ、3 3 7拍子の習熟が付点音符の世界へと転化させる、こうした関係が仮定できます。(北海道教育大学教授)

#### A. リズム打ち動作のポリグラフ (パターンA : I.Y,m,13.08 yrs old.)



#### B. リズム打ちの発達段階：評価カテゴリー (細川：1990)

- パターンA：付点音符を含むリズムパターン、予期的同期。課題⑤可。
- B：3 3 7拍子、刺激音を支えにリズム同期。課題②③④可。
- C：8分音符、持続可、音価の分化不安定。課題②③④練習。
- D：4分音符、同じ速さの持続が課題。課題①、強弱同期可。

#### C. リズム打ち課題：リズムパターン

①  $\frac{2}{4}$  | た こ た こ あ が れ |

②  $\frac{2}{4}$  | すずめ すずめ おやどは どこだ |

③  $\frac{2}{4}$  | よち よち あひるさん |

④  $\frac{2}{4}$  | あそびま しょう まってて ね |

⑤  $\frac{2}{4}$  | はなこさん は あい |

#### D. 2ビート跳躍との発達連関 (参・前号)

